

◆河村郁子さんが検査入院後しばらくたって「展景」と「対詠ごきげんいかが？」に復帰してくれた。これからも無理をせず、歌を作ってほしいものである。

109号において、大橋さんの短信を手違いにより前号と同じものを印刷してしまいました。正しくは以下の通り。「学校勤務を今春辞めることにしました。長年の、十代と共に過ごせる大切な大切な日々と、遂に決別。決まっただけからは、振り返るでもなく先を期待するでもなく、『ありがたい今』をフワツとした感じで過ごしています。生徒たちをネタに詠めなくなったとき、退職の実感がわくのでしょうか。大橋千佳子」。お詫びして訂正します。

〈おすすすめ本〉

・『コロナ禍の東京を駆ける——緊急事態宣言下の困窮者支援日記』（稲葉剛、小林美穂子、和田静香編、二〇二〇年十一月）

（本書は東京・中野区に拠点のある「一般社団法人 つくろい東京ファンド」の二〇二〇年四月からの緊急事態宣言下における活動記録だ。中心は、スタッフの小林美穂子さんの支援活動日記。当

時、ネットカフェからも締め出された人たちが「つくろい」に助けを求めた。困っている人に同行して自治体の福祉事務所などに出向く様子は、手に汗握る、というより読むほうも怒りがふつふつと沸いてくる感じ。圧巻は、受付窓口で同行した人ではない別の困窮者が、大事な電話がくるからと携帯の充電を懇願するのに対し、がんとして受け付けない職員。「区役所は税金で賄ってるのよ」と言うのに対し、たまらず介入する小林さん。「あなたの給料もですよ。そして、その方は長い人生の中で随分と税金を払ってきたと思うのですが…」というくだり。事は深刻なのに、小林さんの理路整然とした明るい態度は救いだ。入管法改悪といわれている昨今だが、この国はずいぶん前から自国民すら守ろうとしてこなかったことがわかる）

（布宮慈子）

muninokai.com

上記のサイトでは、フルカラーのオンライン版「展景」を公開しています。
61号からのバックナンバーも読むことができます。

季刊展景
110号

二〇二三年七月三十一日 発行

編集・発行人 布宮慈子

制作 スタジオ・マージン

無二の会「展景」発行所

山形市上町二一七―二〇二

info@muninokai.com